

自然や周囲の人々との関わりを大切に 児童の育成を目指して

山形県新庄市立北辰小学校

あらかわひろこ
荒川弘子

【実践の内容】

本校の校地内には樹齢300年の大樺をはじめ、桜やもみの木など50種類もの樹木がある。また、すぐ傍を流れる指首野川には絶滅が危惧されている淡水魚「イバラトミヨ」が生息している。そこで、これらの豊かな自然環境を生かし、環境を守るために自分ができることを探る力や実践する力（循環型社会に関する適応力）をつけることを目指してきた。そして、教科の学習との関連、課題の設定→観察・調査→意見交流→振り返り→新たな課題の設定・実践というふうなスパイラル的な学習の展開、地域の先生など関係者・関係機関との連携、発信方法の工夫などを図り成果を得ることができた。

【論文内容の紹介】

1 教科の学習との関連

総合的な学習の時間の年間計画を作成する時に、つけたい力、関連教科の単元名、特別活動の計画などをあわせて表にまとめ、素材や体験の教材化を図った。

2 実際の学習の展開

4年時は、校庭の樹木や指首野川の観察やバイオマスセンターなどの見学をしてクラス全体で気づいたことや不思議に思ったことを出し合い、それらをもとに個人ごとウェビングをして課題を決め、それぞれに追求させた。その後「自然を守るためにできることを考えよう」というねらいに沿い、これから十分に追求できるテーマは何かしっかり話し合わせた結果、指首野川やイバラトミヨについて調

べていくことになった。イバラトミヨのオスは巣作りをして卵をふ化させることや、はりがあるので「はりざっこ」とも言われるなど、生態や形体についてふるさと保全指導員の先生と一緒に調べてきた。5年時は、ゴミ拾いをしてそれらを分別し円グラフにまとめる、水質検査をして生活排水が及ぼす影響などを調べ具体的にどんなことができるかなどを提案するなど、生き物調べだけでなく、その周辺の環境保全について追求していくことも大切にしてきた。学習協力者として引き続きふるさと保全指導員の先生と県農村整備課の協力を得た。

2年間の学習をベースにした今年はこれまでの活動を振り返り、自然を守るための行政の取り組み、豊かな自然を未来に残していくための工夫などといった課題をチームで追求し、市環境課や商工観光課での質問会や市民の意識調査のための街頭アンケートをした。調査活動の結果は新聞やパンフレットにまとめ、100万人のごみ減量大作戦を実施し市民の関心が高い仙台市や公開研究会で発信した。

3 発信方法の工夫

新聞・紙芝居・パンフレット・劇などを作ったり、これらを取り入れた発表の構成や原稿を考えたりと発信の方法を工夫させ、文化祭・イバラトミヨサミット（山形県環境科学研究センター主催）・仙台駅と、発信する相手が校内だけにとどまらないようにした。地域での発信は反響も大きく成果が分かるので、身の回りの環境や一緒に活動してきた仲間、そして、自分を大切にする気持ちが育った。

4 研究の総括

本研究を通して、スパイラル的に学習をすすめる中で地域の先生と連携したり、自分達の調査や実践を多様な方法で発信したりしてきたが、循環型社会に関する適応力や本当の実践力を育てるうえで大変有効だった。地域で行われる保全活動への参加者が増加したことがその証になっている。